

今、学校園がおもしろい!!

2020年2月28日

第7回 SANO リンピック ～もてる力を出し切って～

令和2年2月8日（土）、J：COM末広体育館において第7回SANOオリンピックを開催しました。体育館には、市内小学校4～6年生の多くの子どもたちが参加し、日ごろの縄跳びの成果を競い合いました。

開会式では、末広小学校の堂々とした選手宣誓のあと、泉佐野市公式キャラクターのイヌナキンが登場。佐野台小学校の6年生と一緒にお手本となり、参加者みんなで「いずみさの体操」を行いました。

準備運動で体が温まったところで、いよいよ競技がスタート。個人種目（短縄）の競技は、前一重とび、後一重とび、前あやとび、前交差とび、前二重とびの5種目です。縄跳びに合わせたアップテンポの軽快な音楽が流れる中、まずは前一重とびの予選です。緊張した面持ちの子どもたちが、スタートの合図で一斉にとび始めました。



前一重とび	・2分間にとべる回数を競う
後一重とび	・1分間にとべる回数を競う
前あやとび	・1分間にとべる回数を競う（交差+前で1回）
前交差とび	・1分間にとべる回数を競う
前二重とび	・失敗するまでの回数を競う（着地1回で1回）



「1分間」や「2分間」と聞くと短く感じますが、縄跳びをとび続けるにはかなりの長丁場で、持久力も試されます。とび終わった後の、息を切らす子どもたちの姿は、とても清々しく見えました。

予選から決勝に進出できるのは、各種目上位8名のみです。各種目の予選が終わる度に、体育館の入り口付近に決勝進出者の名簿が貼り出され、決勝に進出できた子どもや保護者の方

からは歓声があがっていました。

決勝種目に入ると、予選を勝ち抜いてきた子どもたちの勝負とあって、どの学年も白熱した時間となりました。苦しそうな表情を浮かべながらもとび続ける子どもたちに、観客席からは、「あと〇秒!」「最後までがんばれ!」などの応援の声が響き、大きな拍手が送られていました。それ

を聞いた子どもたちが、最後の力を振り絞る姿が見られ、学校や学年に関係なく、みんなで応援する温かい雰囲気会場が包まれました。

最後の種目は、団体種目（長縄）8の字です。

8の字	<ul style="list-style-type: none"> ・3分間にとべる回数を競う ・1チーム7人以上（内、回し手2人）とし、回し手は児童とする ・並び方は問わない（8の字、〇の字）
-----	---

4年、5年、6年、学年混合の部門があり、長縄をどれだけとべるかをチームで競います。競技前には、円陣を組んだり、掛け声を出したりしてがんばりを誓い合う場面がみられました。競技がスタートすると、リズムカルに縄を回し、タイミングよく前の人に続いてとび続ける各チームですが、並び方やとぶりズムの取り方、声の出し方等がチームによって違い、工夫がそれぞれ見られました。これまで練習してきたことを出し切り、少しでも良い記録を残そうと、仲間と力を合わせて集中してとぶ子どもたちの姿に、観客席からは大きな声援が飛び交い、会場が大いに盛り上がりました。



子どもたちの競技が終わった後には、大阪体育大学ダブルダッチサークル「華縄麗（かじょうる）」によるダブルダッチのデモンストレーションがありました。音楽に合わせて2本の縄を巧みに操り、13人でさまざまな技を繰り広げながらリズムよく縄をとんでいく姿に、会場からは驚きの声と大きな拍手が沸き上がりました。

閉会式では、表彰と共に、教育長から参加者みんなのがんばりに対して賞賛の言葉があり、子どもたちの笑顔ははじける中、第7回SANOリンピックが閉幕しました。

大会全体を通じて、スポーツマンシップに則ったすがすがしい子どもたちの姿が見られ、保護者の方からも熱い応援があり、体育館にいる人たちみんなが、一体となって大会を盛り上げよう、



楽しもうという雰囲気を作り上げてくれました。また、各小学校からは実行委員や応援の先生方が、大阪体育大学からは十数名の学生ボランティアさんが大会運営に協力してくださいました。

みなさま、ご協力ありがとうございました。

SANO リンピック記録

【個人種目（短縄）】			【団体種目（長縄）】	
前一重とび	4年 388回*	5年 444回	6年 435回*	4年 273回*
後一重とび	4年 195回	5年 194回	6年 197回*	5年 367回
前あやとび	4年 80回	5年 77回*	6年 85回	6年 371回*
前交差とび	4年 166回	5年 172回	6年 171回	混合 291回
前二重とび	4年 208回	5年 453回	6年 586回*	

(*…今大会新記録)